

開催日：平成25年 9月9日

会議名：平成25年 第4回定例会（第4号 9月 9日）

○（上田正雄議長）

本日の会議は私たち議員の任期の最後の定例会でありますので、この際、一言御挨拶申し上げます。

（上田正雄議長登壇）

○（上田正雄議長） 私たち議員は、「9月の夏」と言われる新しい言葉が使われる中で、今議会の閉会をもちまして任期満了を迎えることとなります。議会を代表して、一言御挨拶申し上げます。

思えば、この4年間、東日本大震災や原発の安全神話の崩壊、また尖閣諸島、竹島問題など、我が国は国の内外を問わず、厳しい試練にもまれながらの4年間でありました。

明るいニュースの一つとして、昨日、東京オリンピック開催が決定したことです。スポーツ界にはオリンピックを目標とする大きな道筋が示されたことと思います。国民の一人として、本当におめでとうございます。

しかし、暗いニュースの筆頭は東日本大震災であります。その被災の大きさは、人命に、経済的に、予想外と言われる言葉が簡単に飛び出すほどの大きなショックを日本国民に与えました。

俳優の渡辺 謙さんは、遠いスイスのダボスで開かれました経済フォーラムの年次総会で、議題の一つ、東日本大震災について英語でスピーチし、きずなの大切さを強調しました。「行き場を失った人々に残ったのは、人が人を救い、支え、寄り添うきずなという文化だった」と語りかけました。

また、東京電力福島第一原発事故にも触れ、「再生可能エネルギーに大きくかじを切らなければ、子どもたちに未来を手渡すことはできない」と述べ、人間がコントロールできないエネルギーからの撤退を訴えました。

東日本大震災をきっかけに、国民の自然災害や安全保障に関する意識に大きな変化が見られるようになってまいりました。

一方、4年間の地方自治の流れは、夕張市の破綻を契機として、既成政党の枠組みを超えて大きく奔流しています。そのことは地方自治に対する一貫した価値観が崩れ、

地方の実態に即した地方行政が問われているものであり、地方行政における中央集権的発想に根源的な変化を国民は求めているのであります。

二元代表制の一翼を担う本議会は、いち早く議会基本条例を立ち上げ、浜野議運委員長、大伴副議長を中心に、各党各派の代表により建設的な方向で総論的に討議され、議員定数の削減についても同意され、逐一条例の基本理念に沿って鋭意、議会活動がなされていること、関係者の御努力に改めて感謝の意を表します。

また、ときの経過の中で、小田市長は、今議会における決算認定の提案説明で述べられたことは、厳しい財政状況ではありますが、市政運営の方向性は、「環境・健康・安全・教育」をキーワードとして、市民の暮らしの安全を願う姿勢を明確に強調されました。まことに当を得た考え方であろうと認識しています。

私流に言えば、小田市長の市政運営の原点は、歴史を大きくつかみ、現実を直視し、対費用効果を勘案し、優先順位をもって方向性を探り出す、それを支えるのは説得と納得であろうと思っております。

次に、環境問題が世界的に大きくクローズアップされています。

「もったいない」という言葉は、日本人ならば誰でもなじみのある言葉ですが、その日本語が国連の環境保全の合い言葉として、ケニアの女性環境副大臣であるワンガリ・マタイさんが、日本語の「もったいない」を環境保全の合い言葉として紹介し、会議の閉会時に参加者全員が唱和した世界的な言葉として広まっております。

人間の懐は母親であります。長岡京市の懐は西山であります。西山の環境を守るとは、本市に課せられた大きな責務であります。本市では、議会特別委員会に環境委員会を立ち上げ、市民を巻き込んでの取り組みの姿勢は、今後ともに残るものと確信いたしております。

次に、議場に市旗と並列して国旗、日の丸が掲げられました。私たちは長岡京市民である前に日本国民であります。今議会で多数の議員諸公の御賛同を得て実現したものであり、日本人としての心の誇りを呼び戻す感慨深いものがあります。

世界の民俗は自国の国家、国旗を心のよりどころとするのは当然であります。グローバル社会の到来は、よりその意識を鮮明にしています。

御承知のように歴史の継続を唱えたアーノルド・トインビーは、世界の歴史として、「13歳ごろまでに自分の国の誕生の歴史を教えない国は滅びる」また、同じような趣旨で、文明の衝突を述べられました文明論学者ハンチントンは、「国旗を粗末にする国は滅びる」と言い切っております。

長岡京市議会議員は、大きな誇りを感じています。

昨今の本市を取り巻く周囲の状況は、発展的に大きく変化しつつあります。本市の

今後を占うならば、京都縦貫道長岡京インターが開通し、12月には阪急西山天王山駅の開業が予定され、NHK大河ドラマ、ガラシャの取り上げの働きかけ等々、明るい材料が沸騰しております。

ソフト面では、第3期基本計画後期実施計画の初年度であり、市制40周年を記念して新しい時代への踏み出しの年でもありました。

この4年間、小田市長初め理事者各位、職員の皆様方には、議員の発問、市民の声にはかゆいところに手が届くように、丁寧に説明をしていただき、議員活動に専念できる雰囲気を醸成していただきましたこと、改めてお礼申し上げます。

最後に、本議場の議員各位におかれましては、次期を目指して決意を新たにされている方には、それぞれの御健闘を御祈念申し上げ、再びこの議場で活発な論議が展開されることを期待しています。

また、今期をもって勇退される方におかれましては、長年の御活躍と御功績に対し心から深甚なる意を表します。これからは一市民として、長岡京市の発展のためにお力をいただきたいと思う次第でございます。

結びに、議会運営について、大伴副議長には、浅学非才の小職を補佐し、本当にありがとうございます。

また、議員各位の皆様方には、議会運営には格別の御協力を賜りましたこと、改めてお礼申し上げます。

今、全国には811の市がございます。野口米次郎の詩に、アサガオの美という詩がございます。アサガオは赤い花、白い花、紫の花、赤紫の花、いろいろあるけれども、どの花を見てもアサガオの美は、私をもって始まります、こういうように咲いております。

811の市の中で、長岡京市は自信を持って輝いています。小さくても魅力のあるまち長岡京市は長岡京市民の誇りであります。

小田市長には、これからも新しい歴史に向かって、より一層の研鑽を積まれまして、御活躍されることを御期待申しております。

長岡京市のさらなる発展を心から御祈念申し上げ、退任の御挨拶といたします。
本当にありがとうございました。

(大伴雅章副議長登壇)

○(大伴雅章副議長) 私の方から、一言お礼を申し上げます。私の思いは、今、上田議長さんが代表して述べていただきましたので、簡単に一言お礼を申し上げたい

と思っております。

この2年間、議長さんを補佐するというのが私の役割でございました。今、過大なるお言葉をいただきましたけれど、自分自身では本当に十分できたかどうか、甚だ疑問でございますが、ここにおられる議員諸公の御協力のおかげをもちまして、何とか2年の任期を全うすることができました。ありがとうございます。

そして、小田市長さんを初め、理事者の皆さん、本当に何かとお気遣いあるいは御助力いただきまして、高いところからでございますが、お礼申し上げます。

そして、あえてつけ加えますならば、議会改革を中心に、浜野委員長とやってきたわけでございますが、何と言っても山本事務局長ほか、事務局職員の皆さんの御助力があったおかげだと感謝しております。これまた本当にありがとうございました。

結びに当たりまして、上田議長さんも申されましたけれど、長きにわたりましてここで御活躍された先輩諸公を初め、勇退される議員の皆様、本当に長い間、お世話になりました。御苦労さんでございます。

そして、私を含めまして、再び任期に挑戦する議員諸公におかれましては、10月にこの場でお会いすることを祈念いたしまして、お礼の言葉といたします。

本当に、皆さんどうもありがとうございました。